製剤種差検討会

「製剤設計における種差の問題検討会」

第7回事例報告会 日時: 2018年11月30日(金) 10:00~17:35

会場:城西大学 紀尾井町キャンパス

2016年4月に発足した製剤種差検討会での事例報告は今回で7回目を迎えました。67名が参加 し、5例の事例報告と総合討論がなされました。前回同様、今回も討論時間が足りなくなるぐ らい白熱した議論が交わされ、盛況のうちに会を終えることができました。



▲代表世話人あいさつ 原島秀吉先生 (北海道大学大学院)



▲藤井まき子先生 (日本大学)



▲上林敦先生 (アステラス製薬)

事例報告① 藤井まき子先生

•皮膚表面自由エネルギーの違い

事例報告② 上林敦先生

•経口投与製剤のin vivo性能におけるヒトと 実験動物の種差

事例報告③ 辻本拓哉先生

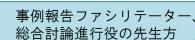
• イヌを用いた放出制御製剤の評価法につ いて

事例報告④ 狩野真由美先生/藤田優先生

•腸管内環境の種差がメサラジン腸溶錠の 吸収性に与える影響に関する検証

事例報告⑤ 石田竜弘先生

微粒子製剤に対する免疫反応:PEG修飾リ ポソームに対するABC減少とCARPA





▲辻本拓哉先生 (興和)



▲狩野真由美先生 (日本バイオリサーチセンター)



▲藤田優先生 (沢井製薬)



▲石田竜弘先生 (徳島大学)



山下伸二先生(摂南大学)



▲菊池寛先生 (LTTバイオファーマ)











多くの参加者から積極的な意見や質問が 発せられ、活発な議論が交わされました。





報告会後に行われた情報交換会(参加者数 45名)では交流の輪が広がりました。

レイアウト:

村野 美佳(大日本住友製薬) 藤田 優(沢井製薬)

第8回事例報告会は6月あるいは7月に開催の予定です(開催地:京都)。